

第1期中期目標期間 [2004(平成16)年-2009(平成21)年]

新たな法人制度の始動期

自律的・自主的な環境の下での 大学活性化

教育

国立大学法人として、6年毎の中期目標・中期計画のもと、その活動が始まりました。法人化前から取り組んでいる教育組織の改善・強化、地域の社会人・職業人の学びの場の提供、地域や他組織との連携強化をさらに押し進めてきました。いくつかの取り組みは、高等教育における良い取り組みを支援する各種GP(グッドプラクティス)などに多く採択されるなど高く評価されています。

教育組織の改善・強化では、医学研究科・医学部・附属病院が柳戸キャンパスに移転することで、ほぼすべての教育研究組織がワンキャンパスにあるという強みを発揮できる環境が整いました。農学部を改組した応用生物科学部を発足し、医学系研究科看護学専攻(修士課程)、連合創薬医療情報研究科(博士課程)、応用生物科学研究科(修士課程)を新設しました。地域の社会人・職業人の学びの場の提供では、教育学研究科にいわゆるインターネット型大学院を開設するほか、専門職大学院である教職実践開発専攻(教職大学院)を設置しました。



2007(平成19)年4月1日
大学院連合創薬医療情報研究科設置



2007(平成19)年4月1日
大学院教育学研究科インターネット型大学院開設



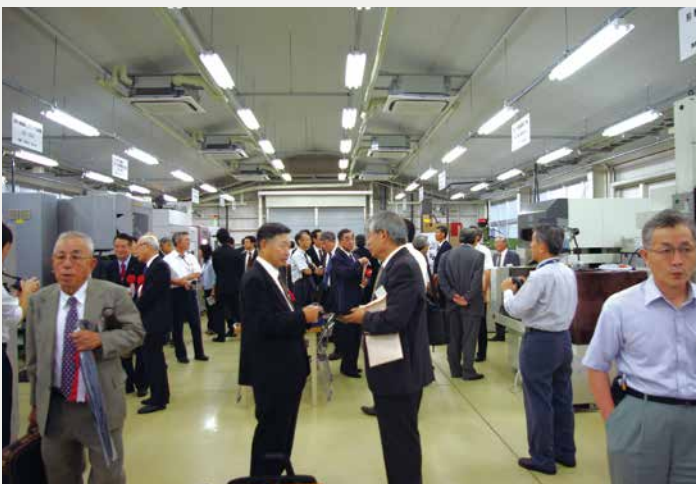
2008(平成20)年9月
平成20年度大学院教育改革支援プログラム(大学院GP)
「グローバル化に向けた実践獣医学教育の推進」に採択

研究

“学び、究め、貢献する岐阜大学”のスローガンのもと、岐阜大学を特徴付けるため、基礎研究や萌芽的研究をはじめ、地域貢献を重要視した研究、更には、海外大学との学術交流協定などに基づいた国際的な研究が推進されました。国立大学法人第1期のこの期間は、各種の競争的研究資金の導入などが進行して、金型創成技術研究センター、物質-細胞統合システム拠点iCeMS 岐阜大学サテライト研究施設などが設置されるなど、各種研究組織が拡充され、岐阜大学の研究の魅力創造や活性化が図られました。



2007 (平成19) 年4月
医学系研究科・医学部附属地域医療医学センターを設置



2009 (平成21) 年4月
金型研究センター開所



2009 (平成21) 年6月26日
物質-細胞統合システム拠点iCeMS 岐阜大学
サテライト研究施設開所



2007 (平成19) 年10月10日
各務原市、各務原商工会議所と包括連携協定を締結



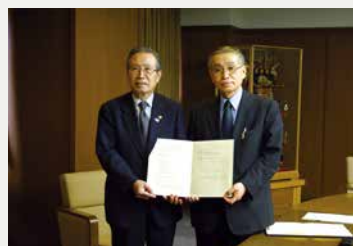
2008 (平成20) 年3月28日
岐阜県と包括連携協定を締結



2009 (平成21) 年2月27日
岐阜市と包括連携協定を締結

社会貢献

第1期中期目標では、「学生のインターンシップ事業等を通じて地域社会との連携を深める」「初等中等教育も含めた大学入学前教育に対する教育貢献を進める」「一般社会人を対象とした生涯学習事業等を拡充する」「技術移転事業の促進と環境整備を行う」「近隣大学との連携を強化する」ことに加えて、「地域産業界や自治体との連携・協力を推進する」ことを掲げました。そして、この目標に従って、2004 (平成16) 年4月の法人化後は、産業界の中でも特に金融機関および自治体との連携協定が次々と締結され、社会貢献拡充のための施策が開始されました。



2009 (平成21) 年4月17日
高山市と包括連携協定締結



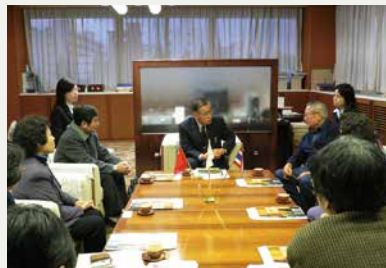
2009 (平成21) 年10月28日
可児郡御嵩町と包括連携協定締結

国際



2005(平成17)年2月2日
広西大学(中国)との学术交流協定に基づく
学生の交流に関する覚書を締結
2017年撮影

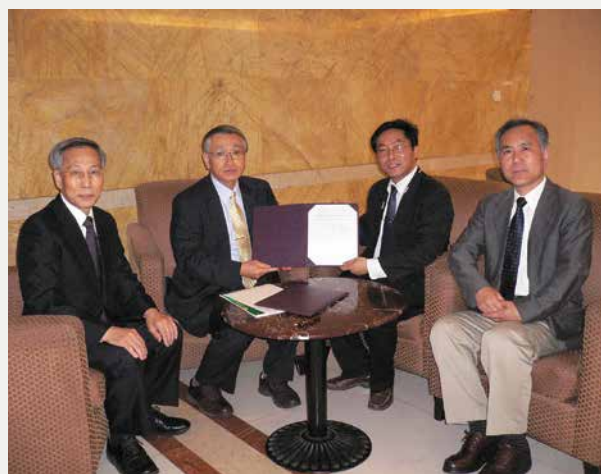
国際化への全学的な取り組みとして、国際交流委員会の主催で、外国人による講演会が毎年開催されました。2009(平成21)年には、国際化を推進する中核的な組織として国際戦略本部が設置され、「留学生30万人計画」や「国際化拠点整備事業(グローバル30)」の施策に沿って、優れた留学生の確保、学生の海外留学の促進、海外協定大学との研究連携、国際情報の発信に取り組みました。この時期、海外活動の拠点となる海外オフィスを開設し、国際展開力の強化を図りました。また、海外協定大学との協働教育や、日本人学生と留学生の混在型教育など、グローバルな人材育成のための教育プログラムをスタートさせました。学术交流協定は大学間協定38大学、部局間協定13機関(2010(平成22)年2月1日現在)へと増加しました。



2005(平成17)年12月3日
「岐阜大学中国同窓会」が発足



2007(平成19)年4月
ハノイ工科大学およびダナン大学との
ツィニング・プログラム受入



2009(平成21)年5月11日
岐阜大学上海オフィス(中国)開設

医療

診療面では、2004（平成16）年4月に「高次救命治療センター」を設置し、救急医療分野の強化を行うとともに、2006（平成18）年8月には、「がん、肝疾患、難病、エイズ」等の診療連携拠点病院に指定され、地域医療機関等と連携を図りながら、岐阜県における拠点病院としての役割を果たしています。教育・研究面では、地域医師不足解消のために、地域医療機関と連携した後期研修医教育体制を整備するとともに、地域医療に関わる医師の養成等のために2007（平成19）年4月に開設した地域医療医学センターを中心に取り組んでいます。また、2010（平成22）年1月に内視鏡外科手術トレーニングセンターを開設し、今後増加が見込まれる内視鏡手術の外科技術向上を目指す体制を整備しています。



2004（平成16）年4月
高次救命治療センター設置



2004（平成16）年6月
医学研究科・医学部・附属病院が移転

その他

2004(平成16)年4月、本学は国立大学法人岐阜大学となり、役員会、教育研究評議会がスタートしました。同時に、国立大学法人では、大学経営者と教員との対話が重要との認識から、第1回キャンパスミーティング(2004年7月)を開催しました。教育研究環境の充実としてキャンパスでは、2009(平成21)年11月、本学キャンパス内に岐阜薬科大学新校舎が竣工しました。これにより、本学の大きな特徴である医・薬・獣研究のワンキャンパスが実現しました。また教職員がより働きやすい環境整備の一環として、2007(平成19)年3月、キャンパス内に保育園「ほほえみ」を設置しました。創立60周年を迎えた2009(平成21)年6月には、全国公募後、学内の教職員および学生の投票により、岐阜大学ロゴマークを制定しました。



2004(平成16)年4月1日
国立大学法人岐阜大学発足



2004(平成16)年7月20日
第1回キャンパスミーティング



2009(平成21)年6月1日
大学ロゴマーク制定



2007(平成19)年3月3日
保育園「ほほえみ」設置

岐阜大学創立60周年を迎え、全国公募後、学内の教職員および学生の投票により決定しました。わが国屈指の質の高い高等教育システムの実現(学び)、生命、環境科学をはじめとする豊かな自然と人との調和を目指す研究拠点(究め)、地域の発展に寄与することによる教育研究活動の充実(貢献する)など、これら岐阜の地での豊かな教育研究活動が、日本全体・そして世界へと発信されて行くこと、また岐阜大学学生が自らの将来に矢のようにまっすぐ進むことを祈念してデザインされています。さらに学章が力強い弓と融合し、岐阜大学の頭文字「G」を形作っています。



2009(平成21)年10月30日
本学キャンパス内に岐阜薬科大学新学舎竣工